

茨城県景気ウォッチャー調査結果（令和3年3月調査）

1 調査結果

～ 景気の先行き判断DIは2年6か月ぶりに50を上回る ～

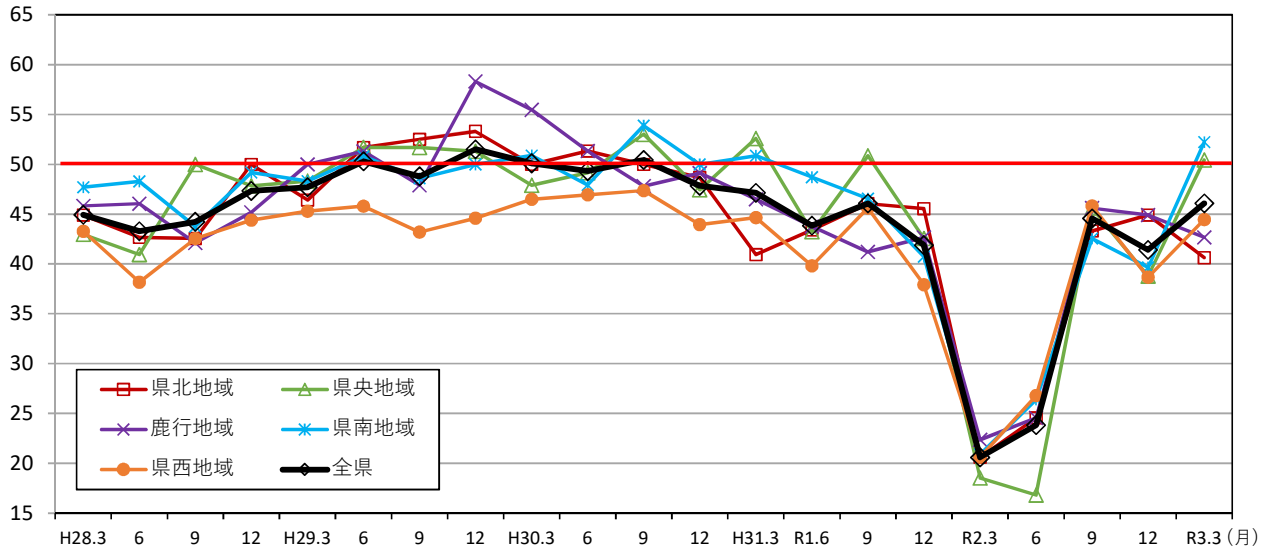
☆ここがポイント

区分	景気現状判断DI		景気先行き判断DI		※DI(Diffusion Index) 景気動向を判断するために使用される指標の1つ。景気 directional (景気が上向きか下向きか) を見るもの。 本調査では、回答を5つの区分ごとに点数で表し、その点数を回答構成比(%)で乗じてDIを算出している。 <参考> DI値50超 : 上向き DI値50 : 横ばい DI値50未満 : 下向き
	3月調査結果	前回調査との差	3月調査結果	前回調査との差	
県全体	46.1	+4.7	52.7	+14.7	
県北	40.6	-4.3	46.9	+10.8	
県央	50.4	+11.6	58.9	+19.2	
鹿行	42.7	-2.2	53.4	+15.7	
県南	52.2	+12.5	53.6	+15.2	
県西	44.4	+5.7	50.5	+12.3	

○県全体の景気現状判断DI、景気先行き判断DIともに前回調査から上昇し、先行き判断DIは10期（2年6か月）ぶりに50を上回った。

○ウォッチャーからは、現状判断については新型コロナウイルスや緊急事態宣言に関するコメントが、先行き判断については緊急事態宣言解除やワクチン接種に関するコメントが、多く寄せられた。

(DI) 景気現状判断DIの推移（地域別）



〔調査の概要〕

- ・ 調査客数 … 県内5地域（県北、県央、鹿行、県南、県西）ごとに60名、計300名。
- ・ 調査内容 … 3か月前と比較した現状及び3か月後の先行きの景気判断（「良い」「やや良い」「変わらない」「やや悪い」「悪い」の5択）とその判断理由（コメント）の回答を集計。
- ・ 調査時期 … 四半期（6、9、12、3月）毎に実施し、翌月公表。（今回調査期間：令和3年3月5日から20日まで）
- ・ 回答率 … 93.3%（300名中280名から回答）

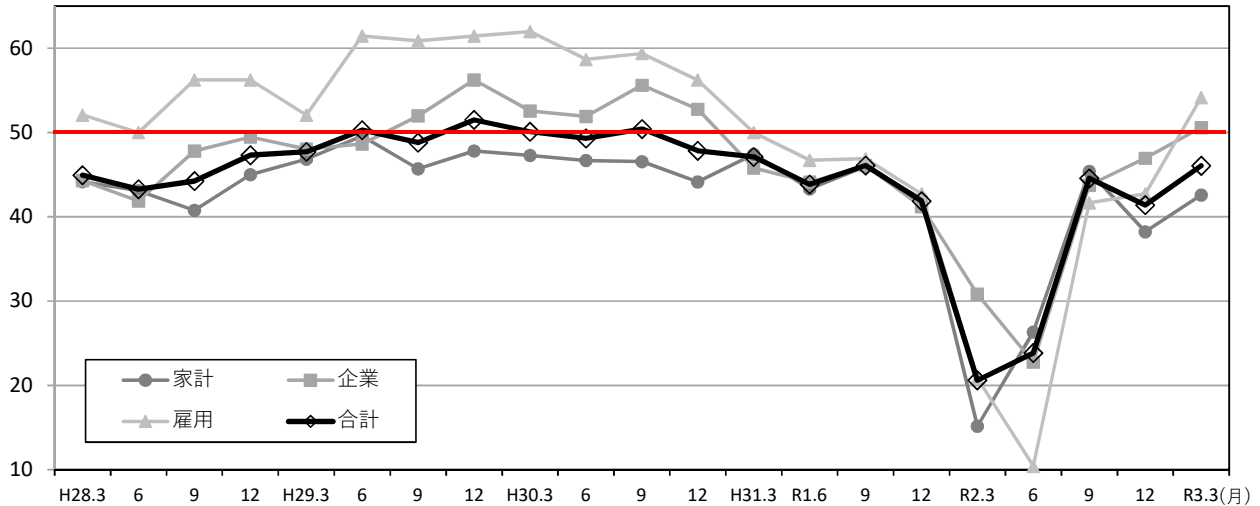
（地域区分） 県北地域：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、東海村、大子町
 県央地域：水戸市、笠間市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町
 鹿行地域：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、銚田市
 県南地域：土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
 県西地域：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

2 県全体の動向

(1) 現状判断DI

景気の現状判断DIの推移

(DI)



分野	調査年月				
	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
合計	20.6	23.8	44.6	41.4	46.1
家計動向関連	15.1	26.3	45.4	38.2	42.6
小売関連	20.5	35.2	42.1	42.9	41.7
飲食関連	16.7	17.5	47.4	31.0	28.9
サービス関連	9.0	19.7	49.0	36.8	45.9
住宅関連	25.0	39.3	35.7	31.3	53.1
企業動向関連	30.8	22.8	43.8	46.9	50.6
農林水産業	42.9	21.4	33.3	37.5	50.0
製造業	29.1	24.0	47.4	48.5	51.6
非製造業	30.9	21.3	40.4	46.4	49.2
雇用関連	20.8	10.4	41.7	42.7	54.2

景気の現状判断DIは、前回調査より4.7ポイント上昇したものの46.1となり、横ばいを表す50を10期連続で下回りました。

家計動向関連DIは、前回調査より4.4ポイント上昇したものの、23期連続で50を下回りました。

企業動向関連DIは、前回調査より3.7ポイント上昇し、9期ぶりに50を上回りました。

雇用関連DIは、前回調査より11.5ポイント上昇し、9期ぶりに50を上回りました。

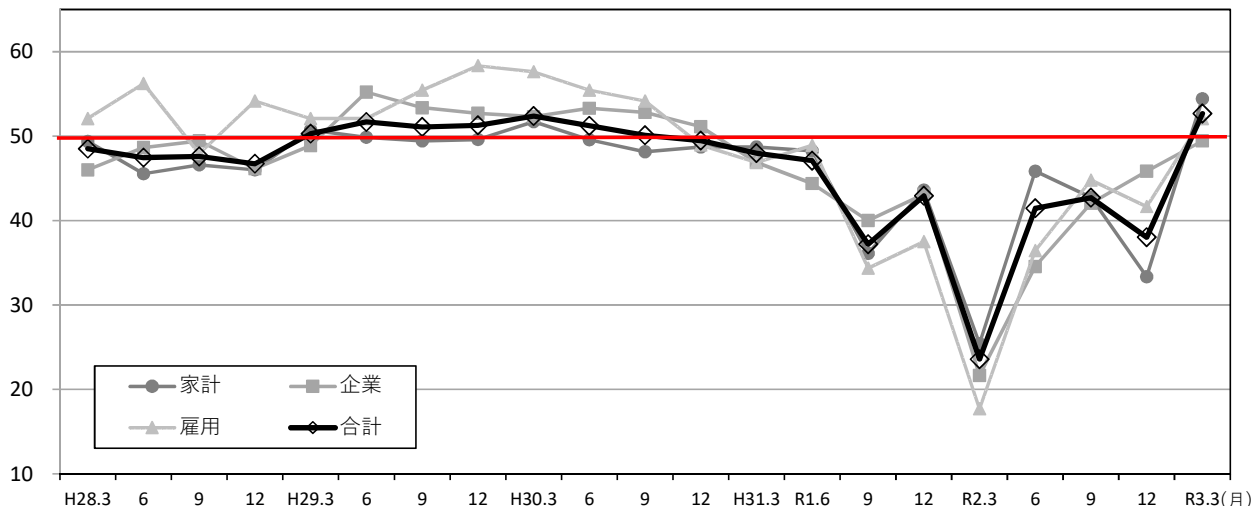
《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・（県北：酒・各種商品小売業）緊急事態宣言により飲食店へ卸す酒の売上げが70%くらい落ち込んだ。
- ・（県央：スーパー）近隣の飲食店の閉店が目立つ。また、客の利用は低価格指向である。
- ・（鹿行：民間職業紹介業）業務量が増えてきており、企業先の受注も増えてきている。特に、半導体、車関係等の業種が良くなってきている印象。食品工場も低迷していたが、徐々に回復傾向にある。
- ・（県南：運輸業（倉庫業））今まで生産調整していた貨物がフル生産に移行された荷主もある。業種により消費の変化はあるが、全般的にやや上向き状態になっている。
- ・（県西：人材派遣業）自動車関連企業（製造・物流）で派遣の打診が増えてきた。また、ワクチン接種に関する求人（受付・受電対応）が増えている。半面、新卒採用を凍結、または昨年より減らしている企業が多い。

(2) 先行き判断DI

景気の先行き判断DIの推移

(DI)



分野	調査年月				
	令和2年 3月	令和2年 6月	令和2年 9月	令和2年 12月	令和3年 3月
合計	23.6	41.5	42.7	38.0	52.7
家計動向関連	25.4	45.8	42.8	33.3	54.4
小売関連	20.8	43.6	41.8	35.4	51.4
飲食関連	40.5	57.5	44.7	28.6	55.3
サービス関連	26.3	45.7	44.5	31.9	57.2
住宅関連	15.6	35.7	28.6	40.6	53.1
企業動向関連	21.7	34.6	42.0	45.8	49.4
農林水産業	35.7	35.7	37.5	50.0	53.6
製造業	20.9	38.5	43.8	47.4	46.8
非製造業	19.9	28.7	40.4	42.9	52.3
雇用関連	17.7	36.5	44.8	41.7	52.1

景気の先行き判断DIは、前回調査より14.7ポイント上昇して52.7となり、横ばいを表す50を10期ぶりに上回りました。

家計動向関連DIは、前回調査より21.1ポイント上昇し、12期ぶりに50を上回りました。

企業動向関連DIは、前回調査より3.6ポイント上昇したものの、9期連続で50を下回りました。

雇用関連DIは、前回調査より10.4ポイント上昇し、10期ぶりに50を上回りました。

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・（県北：観光型ホテル）国、県の緊急事態宣言が解除され、宿泊予約の問合せは増加傾向にある。新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、現在の状況が続くのであれば、景気はやや良くなっていると思われる。
- ・（県央：製造業（食料品））新型コロナウイルス次第。春休みやゴールデンウィークで感染拡大なら悪化もある。
- ・（鹿行：クリーニング店）4月に高齢者からワクチン接種開始なので期待している。飲食店も普通営業しているので、少しずつ活気が戻ってきている。
- ・（県南：タクシー運転手）茨城県独自の緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスの予防接種も始まるので変わると思う。
- ・（県西：人材派遣業）新型コロナウイルスの影響やオリンピック需要が不透明な状況のため、様子見の企業が多い。

3 地域別の動向（※調査結果はP.1参照）

（1）県北地域

- ① 現状判断： 景気の現状判断DIは40.6となりました。前回調査より4.3ポイント低下して、横ばいを表す50を10期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・（金融業）飲食業・サービス業は依然売上げが低迷していることに加え、製造業については4月以降の受注見積依頼が大幅減少し、既に帰休を実施している企業もある状況。
- ・（タクシー運転手）駅乗り減少が続く。夜の飲食店（飲み屋）の店じまいがある。夜間の利用者は、減少のままである。

- ② 先行き判断： 景気の先行き判断DIは46.9となりました。前回調査より10.8ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を9期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・（スーパー）緊急事態宣言の解除により、やや持ち直してくると思う。
- ・（ドライブイン）ワクチンが行き渡って少しずつ新型コロナウイルス前の生活、余暇を取り戻していければいい。今も、大規模ではないが、レジャーや花見などのイベントを対策しながら進めている部分もある。

③ 特徴的動き

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・（商店街代表者）新型コロナウイルスによる外出自粛制限解除を受けて、当商店街周辺の駐車場が週末混み合う状態に戻ってきている。
- ・（求人広告）従来では考えが及ばないような閉店、倒産、離職が散見され始めている。

（2）県央地域

- ① 現状判断： 景気の現状判断DIは50.4となりました。前回調査より11.6ポイント上昇して、横ばいを表す50を6期ぶりに上回りました。

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・（コンビニエンスストア）コロナ禍もあり、まだまだ客足は厳しいが、行楽関連の開放と客の予防対策徹底の高さから、人の動きは良くなっており、売上げにも反映され始めている。
- ・（設計事務所）緊急事態宣言の解除により、世の中に活気が戻りつつある。引合いも徐々にではあるが増えてきた。

- ② 先行き判断： 景気の先行き判断DIは58.9となりました。前回調査より19.2ポイント上昇して、横ばいを表す50を8期ぶりに上回りました。

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・（商店街代表者）新型コロナのワクチン接種も始まり、不安要素もあるが、少しずつ良くなっていく期待感を感じる。
- ・（小売業）緊急事態宣言の解除とともに客足が若干戻ってきており、客数は今後も更に増えてくるかと思われる。

③ 特徴的動き

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・（観光型ホテル）週末や祝日で、那珂湊の魚市場や大洗へ行く車が、他県ナンバーも含め多くなり、多少の渋滞も見られるようになった。
- ・（金融業）飲食業・ホテル業に関しては未だ新型コロナウイルスの影響を大きく受けており、休業・廃業が後を絶たない。3月から、偕楽園の梅まつりが開催中で、「光とのコラボ」がロコミや新聞掲載により集客増となっている。

(3) 鹿行地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは42.7となりました。前回調査より2.2ポイント低下して、横ばいを表す50を11期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・ (サービス業) 新型コロナウイルスの影響がまだまだ続いており、営業活動に支障をきたしている。年度末の駆け込み需要も昨年よりは鈍化しており、悪い流れが続いている。
- ・ (小売業(書店)) 大ブームのビッグタイトルが終了して、次にくる物が見つからない。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは53.4となりました。前回調査より15.7ポイント上昇して、横ばいを表す50を10期ぶりに上回りました。

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・ (日本料理店) 自粛疲れと旅行者の問合せの増加がある。
- ・ (金融業) 積極的な金融対策により、当面の資金繰りは補えていると感じる。また、企業・家計においては新たな戦略や生活様式も定着しつつあり、ワクチン接種も具体化してきていることから、回復基調が続くと思われる。

③ 特徴的動き

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・ (製造業(食料品)) 飲食店の廃業やホテル等の休業が続いており、当地区の特徴でもあるスポーツ民宿へのキャンセルが多発していることから、ワクチン接種による新型コロナウイルス感染者数の減少次第ではないか。
- ・ (運輸業(道路貨物運送業)) 日本製鉄の高炉を1基休止というニュースは、大変地元で話題となっている。

(4) 県南地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは52.2となりました。前回調査より12.5ポイント上昇して、横ばいを表す50を8期ぶりに上回りました。

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・ (コンビニエンスストア) 客数が徐々に戻ってきている。
- ・ (都市型ホテル) 宿泊の稼働は伸びていないが、レストラン予約や来館が3か月前より多い。また、宴会の予約の問合せが多少増えつつあることから、景気はやや良くなっていると思える。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは53.6となりました。前回調査より15.2ポイント上昇して、横ばいを表す50を10期ぶりに上回りました。

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・ (サービス業) 新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、緊急事態宣言の解除や、新型コロナウイルスのワクチン接種が進むことによる外出ムードの高まりから、幾分景気は良くなるのではないかとと思われる。
- ・ (和食食堂) 緊急事態宣言が解除され、葬儀も含め集まり事の制限も少し緩くなるので、少しは良くなると思う。

③ 特徴的動き

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・ (スーパー) この状況で競合店の出店があった。セールに対しての購買意欲は旺盛のようである。
- ・ (都市型ホテル) レストランにおいて、お昼の利用は増加している。団体の利用も未だ少ないがある。しかし、ディナータイムは客足が遠のき厳しい状況。近隣の飲食店からも同様の意見を聞いている。県独自の緊急事態宣言が明けてから、今後この業態の先行きが不安である。

(5) 県西地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは44.4となりました。前回調査より5.7ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を28期連続で下回りました。

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・ (製造業 (化学工業)) 昨年後半からのパソコン、スマートフォン、IT通信インフラの需要好調が継続し、電子材料製品の受注が好調である。
- ・ (旅行代理店) 新型コロナウイルスの影響で、旅行者、送迎者ともにいない。最悪の状態が続いている。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは50.5となりました。前回調査より12.3ポイント上昇して、横ばいを表す50を11期ぶりに上回りました。

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・ (求人広告) 直近が景気が悪いので底は脱した感がある。以前は予算削減の予定なども聞いていたが、現在聞く話としては採用拡大や設備投資費の増加など景気の良い話が増えてきている。
- ・ (製造業 (化学工業)) 電子材料の受注が好調である環境はしばらく続く。

③ 特徴的動き

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・ (求人広告) 飲食店の空きテナントが増えた。地域によっては、このままシャッター街にならないか不安な地域もある。
- ・ (人材派遣業) 引き続き日用品を扱う小売、卸売、物流企業の採用が活発である。自動車メーカーの増産を受けて、関連会社で採用が見込まれる。

4 多く寄せられたキーワード

以下では、ウォッチャーから寄せられた回答の中で多く見られたキーワードや、前回から増加したキーワードを含むコメントを掲載しています。

- ・ 「新型コロナウイルス」に関するコメント 182件 (県北: 42 県央: 36 鹿行: 40 県南: 29 県西: 35)

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・ (コンビニエンスストア) 新型コロナウイルスの影響により客数が減少している。
- ・ (小売業) 新型コロナウイルスが流行してから1年が過ぎ、昨年は会社も個人も支援や融資を受けて持ちこたえていたようだったが、最近は段々と厳しくなっているように感じる。

- ・ 「緊急事態宣言」に関するコメント 75件 (県北: 13 県央: 23 鹿行: 13 県南: 19 県西: 7)

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・ (農産物直売所) 緊急事態宣言が解除され、客数が増えてきた。
- ・ (割烹料理店) 茨城県独自の緊急事態宣言は解除されはしたが、客の流れはまず飲食店には向かないようである。

- ・ 「ワクチン」に関するコメント 58件 (県北: 12 県央: 15 鹿行: 14 県南: 9 県西: 8)

《景気ウォッチャーの主なコメント》

- ・ (小売業 (燃料)) 希望的観測も含め、新型コロナウイルスのワクチンにより、物流や人の流れが回復し売上げも戻らと思う。
- ・ (民間職業紹介業) 新型コロナウイルスのワクチン接種が進めば、今のように市場が止まることなく、今後は良くなっていく見通しである。取引先でも、今後の見通しは増産傾向となっている。